



渡部 一夫 議員

貧困対策につなぐ

問 貧困問題は、格差社会の問題といえる。大企業、高学歴重視の政策がいずれは社会を混乱させてしまうのではないかと心配している。

答 国の各調査の数値については、高齢者の厳しい生活実態が浮き彫りとなる結果であると考えられるが、本市における高齢者の経済状況については、どのように認識しているのか。

答 実際に本市の介護保険料の所得段階を見ると、今年度6月時点で本人が非課税である者の総数は1万3千164人であり、全体の62%となっていることから、高齢者の暮らしは決して楽ではない状況と捉えている。



高齢者の世帯構造

答 行政として貧困にあえぐ生活者に寄り添った取り組みについては、貧困が世代を超えて連鎖することがないように、必要な環境整備を図るとともに、子どもの実態把握に努

め、その子どものライフステージに沿って早期かつきめ細やかな施策の実施と積極的な情報提供を行い、それらの施策を必要とする家庭や子どもが確実に利用できるように取り組む必要がある。

質問を終えて

持ち時間の40分の使い方は、毎回苦慮しています。私たちの生活に欠かせない課題がいかにか多いかです。

①「貧困」の深刻な実態について

② 高齢者の住宅と生活環境の意識について



大岩 常男 議員

救急車の待機につなぐ

療機関と連携協力の上、対応を進めていく。



待機救急車

問 高齢者の安心・安全を考慮した市の防災訓練を実施する事について伺う。

答 災害時における高齢者の行動には迅速な情報伝達と避難支援が重要であり、自主防災組織での訓練活動や行政区長、民生委員をはじめとする地域住民の日頃からの声かけなど体制の整備が必要であり、総合防災訓練においても、いざという行動のイメージをもち訓練に今後取り組む。

質問を終えて

救急車の待機時間については市民の生命に係わる事なので至急対策を講じる必要がある。

①経常収支比率の推移と決算比率の差について

② 市道等の歩道整備について



小川 尚一 議員

終の棲家となる南相馬市を

問 高齢者など交通弱者の公共交通政策として、定額タクシーに取組んでいるが、市民からは乗降場所や料金などで使い勝手が悪いとの指摘がある。総合計画後期計画に「交通弱者の移動手段の利便性を図る」とあることから、抜本的な見直しが必要と思うが伺う。

答 高齢者の生活を支える公共交通という視点で、定額タクシーの



見直しが検討される定額タクシー

問 地域コミュニティとして高齢者の居場所づくりが求められるが、総合計画後期計画でも重点戦略に地域サロンなどの活動活性化が挙げられている。更なる拡充拡大を図るか伺う。

答 現在、市が行っている「週一サロン」と社会福祉協議会で実施している「ふれあいサロン」があるが、例えば180行政区で状況がどこかに行ける状況へと拡大したい。財源や関係機関との協議などの問題はありますが、高齢者の大きな福祉政策の一つとして取り組む。

問 高齢者の日常生活支援について、高齢者世帯などのごみ出し運搬が困難な問題について

- ① スポーツ特区と農業特区の取り組み
- ② 太陽光発電の廃棄とリサイクル問題
- ③ 中心市街地活性化と商業活性化の取り組み

質問を終えて

誰もが何れは高齢者となる。住んでよかった「終の棲家」となる南相馬市の取り組みを。

問 高齢者総合計画には「高齢者世帯などに対する個別回収や分別支援のシステム構築について検討する」とあるが、状況やニーズについて調査し、年度内実施に向け、少しでも着手できるような進めたい。

答 取組みやニーズについて調査し、年度内実施に向け、少しでも着手できるような進めたい。



志賀 稔宗 議員

急発進防止装置に支援制度を

問 高齢ドライバーはこの30年で10倍に増えており交通事故も増えている。安全運転講習会や支援制度等十分な対策が必要と思うが、高齢者の安全運転継続のため警察署と連携して交通安全教室を行うなど支援している。急発進防止装置の促進のため支援制度を

答 運転免許証の自主返納促進のためにはバス利用程度の交通手段の構築が必要と思う。自家用有償旅客運送制度の活用を検討すべき。

問 万が一に備え自賠責保険加入を奨励、義務とする。また補助する自治体もみられる。本市でも情報提供等の取り組みをすべきでは。

質問を終えて

「代替交通手段の確立なくして免許返納なし」更なる足確保対策こそ市民の願い。

- ① ロボットテストドライブの活用促進について
- ② 観光・民間交流人口の拡大で活性化を促進について



交通安全パレード